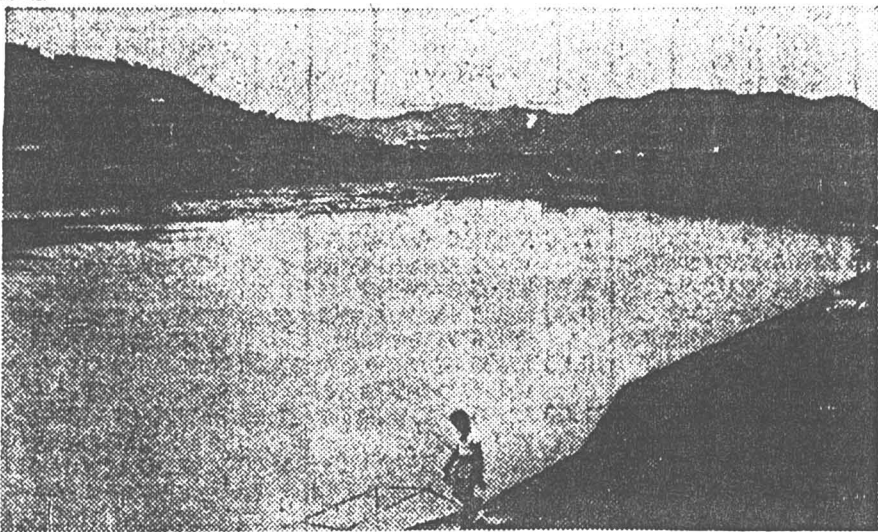




ドベ処理が課題となっている水俣湾

本格的にドベ処理

水俣湾 県、熊大に調査委嘱

水俣湾内にたい積している水銀を含むドベをどうするかが大きな課題になっているが、熊本県公害課では、熊大に処理対策の調査を委嘱、本格的な処理に乗り出す。

この調査は熊大工学部を中心

に、同学部の化学、土木教室、そ

れに医学部衛生学教室などが協

力、どの程度のドベのたい積があ

り、その深層部分の水銀量は一

とまでくわしく調べる予定で、本

年度中に結論を出す計画。費用は

水無川（八代市）河口調査を含め

て七百九十万円。

同課としては、この調査を持つてしゅんせつか埋め立てかなどの処理対策をまとめるが、これにより水俣湾のドベ処理は、水俣病発見から十五年ぶりに前進するものと期待されている。

ところで、水俣湾には、チツソ

が四十一年五月まで有機水銀を流

していたことが明らかになってお

り、熊大医学部衛生学教室の追跡

調査では、魚介類の水銀量も四十

二年十月で、厚生省が平常値の限

度とした「PPMをはるかに越え

る八一PPMが検出されている。

しかし有機水銀そのものは水に溶ける性質があるので、水銀の流失がとまったあとは、四十二年四月六〇PPM、四十三年八月五PPM、四十三年十一月一PPMと徐々に減少、表面的には平常値にかえっている。

ただ、深層部分にはまだ相当量の有機水銀が残っているものと予想され、ドベ全体を除去しない限り、水俣湾は完全に美しくならないと専門家はみている。